



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **04052464 A**(43) Date of publication of application: **20.02.92**

(51) Int. Cl. **F25B 1/00**  
**F04B 49/06**  
**F25B 1/00**  
**G05B 13/02**

(21) Application number: **02163223**(71) Applicant: **MITSUBISHI ELECTRIC CORP**(22) Date of filing: **20.06.90**(72) Inventor: **KAJIYAMA KOJI**(54) **REFRIGERATOR**

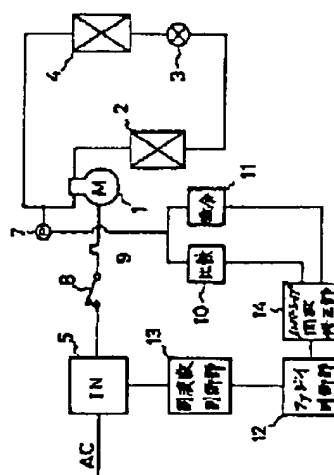
## (57) Abstract:

**PURPOSE:** To enable a predetermined set pressure to be rapidly reached and contrive a lower power consumption and a better follow-up to variation in cooling load, by performing a fuzzy inference according to the difference between a detected refrigerant pressure and a preset pressure and to the differential coefficient of the detected pressure, and varying a membership function according to a system.

**CONSTITUTION:** When a pressure detecting part 7 detects a refrigerant pressure and outputs a pressure detection signal. A pressure comparing part 10 compares the signal with a reference value set correspondingly to a predetermined set pressure, and generates a signal corresponding to the difference between the two. A differential coefficient calculating part 11, on receiving the signal from the detecting part 7, calculates the differential coefficient of the refrigerant pressure, and generates a signal corresponding to the calculated coefficient. A fuzzy controlling part 12 performs a fuzzy inference based on the signals from the comparing part 10 and the calculating part 11, and outputs a set value. According to the set value, a frequency controlling part 13 controls a time for varying the output frequency of an inverter 5 so that the predetermined set pressure is reached in a shorter time. A function correcting part 14

corrects the shape of a membership function in the fuzzy controlling part 12 so as to improve dynamic characteristics in response to variations in load, thereby optimizing the dynamic characteristics of a refrigerant system.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&amp;Japio



⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平4-62464

⑮ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)2月27日

G 01 N 27/406  
27/416

6923-2J  
6923-2J

G 01 N 27/58  
27/46

Z  
3 7 1 H

審査請求 有 請求項の数 3 (全5頁)

⑭ 発明の名称 固体基準物質を備えたセンサプローブ

⑰ 特 願 平2-173028

⑱ 出 願 平2(1990)6月30日

⑲ 発 明 者 矢 嶋 保 岐阜県可児郡御嵩町御嵩2192-345

⑳ 発 明 者 小 出 邦 博 愛知県名古屋市中村区栄生町27-13

㉑ 出 願 人 東京窯業株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目8番2号 鉄剛ビルディング

㉒ 代 理 人 弁理士 藤 巻 正 憲

明 細 書

1. 発明の名称

固体基準物質を備えたセンサプローブ

2. 特許請求の範囲

(1) ペロブスカイト型プロトン導電性固体電解質部材と、この固体電解質部材を挟んで形成された1対の多孔質電極と、一方の前記多孔質電極に接触して設けられガルバニ電池式センサの基準となる固体基準物質とを有し、前記固体基準物質は磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合物であることを特徴とする固体基準物質を備えたセンサプローブ。

(2) ペロブスカイト型プロトン導電性固体電解質により形成された一端閉塞型のセンサ素子と、このセンサ素子の閉塞端側の内面及び外面の所定領域に形成された1対の多孔質電極と、前記センサ素子の閉塞端側部分に相互に間隙をおいて外嵌されその一方の端部にて前記センサ素子に固定されたスリーブと、このスリーブと前記センサ素子

との間に充填されてガルバニ電池式センサの基準となる固体基準物質とを有し、前記固体基準物質は磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合物であることを特徴とする固体基準物質を備えたセンサプローブ。

(3) 前記固体基準物質の前記磷酸アルミニウム又は前記水酸化アパタイトと前記ペロブスカイト型酸化物との混合比は、1:20乃至9:1であることを特徴とする請求項1又は2に記載の固体基準物質を備えたセンサプローブ。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ボイラ、燃焼炉及び自動車等から排出される水素又は水蒸気の濃度を測定するために使用される固体基準物質を備えたセンサプローブに関し、特にガルバニ電池式センサの基準として固体基準物質を備えたセンサプローブに関する。

〔従来の技術〕

高温排ガス中の水素又は水蒸気の濃度を測定す

ることは、ボイラ、燃焼炉及び自動車エンジン等の燃焼効率を正確に求めるために不可欠である。このため、高温排ガス中において安定に作動し、信頼性が高い水素及び水蒸気濃度測定装置の開発が要望されている。

そこで、従来、酸化ストロンチウム及び酸化セリウム( $\text{SrCeO}_3$ )等のペロブスカイト型酸化物からなるプロトン導電性を有する固体電解質をセンサ素子とし、このセンサ素子の両面に夫々測定極及び基準極を設けた水素又は水蒸気センサが提案されている(特開昭58-50458, 60-263853, 61-2064, 61-3054, 61-14566号公報)。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、上述の従来技術は、基準物質として所定濃度の水素又は水蒸気を含有するガスを使用するので、以下に示す問題点がある。

① プロトンと共に電子ホールがセンサ素子中を移動するため、測定極側から基準極側、又は基準極側から測定極側へ水素が電気化学的に移動する。このために、基準極側の水蒸気分圧が変化し

る。

〔作用〕

本願発明者等は長時間に亘って安定して動作する水素及び水蒸気センサ装置を開発すべく、種々実験研究を繰り返した。その結果、基準物質として、磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物とを混合した固体物質を使用することにより、長時間に亘って安定して水素及び水蒸気濃度測定を行なうことができることを見出した。

つまり、磷酸アルミニウム及び水酸化アパタイトには、通常センサが使用される温度(400乃至800℃)において、水蒸気を吸収又は放出するという作用があり、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物には前記磷酸アルミニウム及び前記水酸化アパタイトの水蒸気吸収放出特性を向上させるという作用がある。従って、固体基準物質として、磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、上述のペロブスカイト型

酸化物とを混合した固体物質を使用することにより、水素又は水蒸気濃度の測定により移動した水素に相当する分の水蒸気を固体基準物質が吸収又は放出して、基準極側の水蒸気分圧が略一定に維持される。これにより、長時間に亘って安定して水素又は水蒸気濃度を測定することができる。

② 基準極側の水蒸気分圧が変化するために、測定極側の水蒸気濃度(水蒸気分圧)又は水素濃度(水素分圧)を正確に求めることができない。

本発明はかかる問題点に鑑みてなされたものであって、基準極側の水蒸気分圧の変化が抑制でき、水素又は水蒸気濃度の測定を長時間に亘って安定して行なうことができる固体基準物質を備えたセンサプローブを提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

本発明に係る固体基準物質を備えたセンサプローブは、ペロブスカイト型プロトン導電性固体電解質部材と、この固体電解質部材を挟んで形成された1対の多孔質電極と、一方の前記多孔質電極に接触して設けられガルバニ電池式センサの基準となる固体基準物質とを有し、前記固体基準物質は磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合物であることを特徴とす

る。

なお、上述の作用を確実に得るために、磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合比を1:20乃至9:1とすることが好ましい。

〔実施例〕

次に、本発明の実施例について添付の図面を参照して説明する。

第1図は本発明の実施例に係る固体基準物質を備えたセンサプローブを示す断面図である。センサ素子1は一端が閉塞された管状をなし、開放端部の外周面が外方に突出してこの部分に図1aが設けられている。そして、このセンサ素子1の閉塞端側部分の外周面及び内面には多孔質材料を被着

することにより夫々基準極3及び測定極4が形成されている。

このセンサ素子1の閉塞端側の略半分には筒状のスリーブ5が外嵌されていて、センサ素子1の閉塞端部がスリーブ5の内側の略中央に配置されている。このスリーブ5のセンサ素子1側の端部はセラミック接着剤8によりセンサ素子1の外周面略中央の位置に固定されており、他方の端部はセラミック接着剤等からなるセラミックシール材8により封止されている。このスリーブ5内にはそのセンサ素子1側の端部からセラミックシール材8の近傍まで固体基準物質2が充填され、更にこの固体基準物質2上にアルミナ( $Al_2O_3$ )粉末7が充填され、これらの固体基準物質2及びアルミナ粉末7がセラミックシール材8によりスリーブ5内に封入されるようになっている。

センサ素子1の外周面には基準極3からセンサ素子1の長手方向の略中央までその長手方向に沿って帯状のプリントリード配線9aが形成されている。また、このプリントリード配線9aのセン

サ素子1中央部側の端部にはリード10aが接続されており、これにより、基準極3はこのプリントリード配線9a及びリード10aを介して外部測定装置(図示せず)に導出されている。

センサ素子1の開放端側部分の外周面には、基本的に筒状をなす金属性ホルダ11a、11bが外嵌されていて、このホルダ11a、11bは鉚1aを挟み込んだ状態で相互に固定することにより、いずれも鉚1aに固定されている。このホルダ11a、11bと鉚1aとの間には夫々耐熱性ゴムからなるOリング15により両者間が夫々気密的にシールされている。

また、センサ素子1内にはホルダ11bの下端開口部12を介して導入管13が挿入され、この導入管13はその先端部をセンサ素子1の閉塞端内面から若干離隔させてセンサ素子1の内側に同心的に配置されている。この導入管13は被測定ガスをセンサ素子1内に導入するものであり、ホルダ11bの開口部12にて導入管13とホルダ11b内面との間をガスの通流を可能にして固定

されている。この導入管13にはその長手方向に沿ってプリントリード配線9bが形成されており、この配線9bの導入管先端部側の端部は測定極4に接続されている。また、配管9bの導入管基端部側の端部にはリード10bが接続されており、これにより、測定極4はこのプリントリード配線9b及びリード10bを介して外部の前記測定装置に電気的に導出されている。

センサ素子1は $SrCe_{0.95}Yb_{0.05}O_{3-y}$ 、 $CaZr_{0.95}In_{0.05}O_{3-y}$ 、 $BaCe_{0.95}Y_{0.05}O_{3-y}$ (但し、Yは0乃至0.5の範囲の数値)等のペロブスカイト型複合酸化物からなるプロトン導電性固体電解質で成形されている。

また、基準極3及び測定極4はPt、Ni又は酸化物導電体等の多孔質材料を焼き付けることにより形成されている。

更に、固体基準物質2としては、焼酸アルミニウム又は水酸化アバタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物とを1:2.0乃至9:1の混合比で混合して充填

している。

次に、本実施例に係るセンサプローブの動作について説明する。

固体電解質で形成されたセンサ素子1内に、導入管13を介して被測定ガスを供給すると共に、センサ素子1の基準極3及び測定極4が配置された閉塞端部を所定の起電力測定温度に加熱する。そうすると、水素又は水蒸気を含有する被測定ガスと接触する固体電解質の内面と、固体基準物質2と接触する固体電解質の外表面との間を、被測定ガス中の水素又は水蒸気濃度と、固体基準物質2の基準濃度との間の相違に起因して、プロトンが移動する。このプロトンの移動により、測定極4と基準極3との間には、ガルバニ起電力が発生する。この起電力をリード10a、10bを介して検出することにより、被測定ガスの水素又は水蒸気濃度を検出することができる。この場合に、固体基準物質2は、測定により移動した水素に相当する分の水蒸気を吸収又は放出して、基準極3側の水蒸気分圧を略一定に維持する。被測定ガスは

開口部12を介してセンサ素子1の外部に排出され、被測定ガスが導入管13を介してセンサ素子1の内部に連続的に供給される。これにより、連続的に、且つ安定して被測定ガスの水素又は水蒸気濃度を測定することができる。

本発明に係るセンサプローブは、上記実施例のように、固体電解質部材を一端閉塞型に構成したものに限らず、種々の構造のものに適用できることは勿論である。少なくとも、基準極となる多孔質電極に固体基準物質を接触させて設ければよい。

次に、本実施例に係るセンサプローブを使用して実際にアルゴン中の水素の濃度を測定した結果について説明する。

#### 水素濃度の測定

第1図に示す構成のセンサプローブを使用した。このセンサプローブのセンサ素子1は  $\text{SrCe}_{0.95}\text{Yb}_{0.05}\text{O}_{3-y}$ 、 $\text{CaZrO}_3$ 、 $\text{In}_{0.1}\text{O}_{3-y}$  又は  $\text{BaCe}_{0.95}\text{Y}_{0.05}\text{O}_{3-y}$  等の組成を有するペロブスカイト型プロトン導電性固体電解質で成形されている。

プローブの起電力特性を示すグラフ図である。この第2図から明らかなように、本実施例に係るセンサプローブは水素分圧の変化に対して優れた起電力特性を示した。

第3図は横軸に時間をとり、縦軸に起電力をとって、センサプローブの起電力の時間変化に対する特性を示すグラフ図である。この第3図から明らかなように、本実施例のセンサプローブは、1500時間以上の連続測定においても殆どドリフトすることなく、安定した水素濃度の測定を行なうことができる。

#### 【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、水素及び水蒸気センサプローブの基準物質として、磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと、酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合物からなる固体基準物質を使用しているから、この固体基準物質が水蒸気の吸収又は放出を行なうため、固体電解質中の電子ホールとプロトンとの混合導電性による水素の電気化学

このセンサ素子1の内面及び外面にPt、Ni又は酸化物導電体等からなる多孔質電極（基準極3及び測定極4）を焼き付けた後、このセンサ素子1の外側にセラミック（Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）又は金属性のスリーブ5をセラミック接着剤6により固定した。そして、スリーブ5の内側に、磷酸アルミニウム又は水酸化アパタイトと酸化物イオン及び電子の混合導電性を示すペロブスカイト型酸化物との混合物からなる固体基準物質2を充填し、この固体基準物質2の上部にアルミナ粉末7を充填した後、スリーブ5の上端部をセラミックシール材8で封止した。

更に、センサ素子1の外側の基準極3とセンサ素子1の内側の測定極4とをシールするために、センサ素子1の銑1aの部分に2本の耐熱性ゴムリング15を介して金属性ホルダ11a、11bで挟み込んでシールした。

このように構成された装置を使用して、アルゴンガス中の水素濃度を測定した。第2図は横軸に水素分圧をとり、縦軸に起電力をとって、センサ

移動に起因する基準極側の水蒸気分圧の変化及びセンサ電位のドリフトを著しく低減することができる。従って、本発明に係るセンサプローブは、長時間に亘って水素濃度又は水蒸気濃度の測定を安定して行なうことができる。

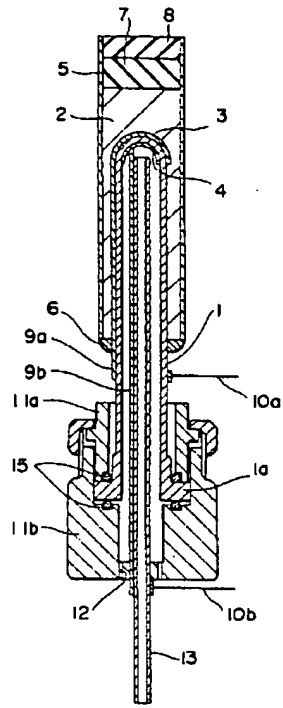
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例に係る固体基準物質を備えたセンサプローブを示す断面図、第2図は同じくその起電力特性を示すグラフ図、第3図は同じくその起電力特性の時間変化を示すグラフ図である。

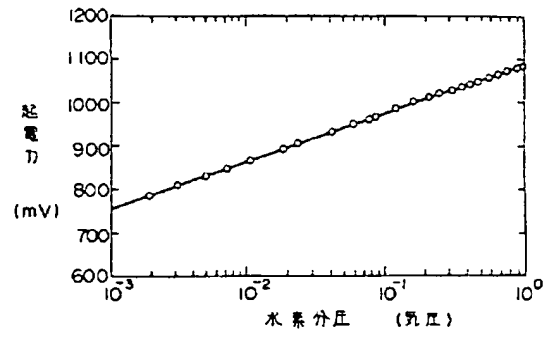
1；センサ素子、1a；銑、2；固体基準物質、3；基準極、4；測定極、5；スリーブ、6；接着剤、7；アルミナ粉末、8；セラミックシール材、9a、9b；プリントリード配線、10a、10b；リード、11a、11b；ホルダ、12；開口部、13；導入管、15；リング

出願人 東京薬業株式会社

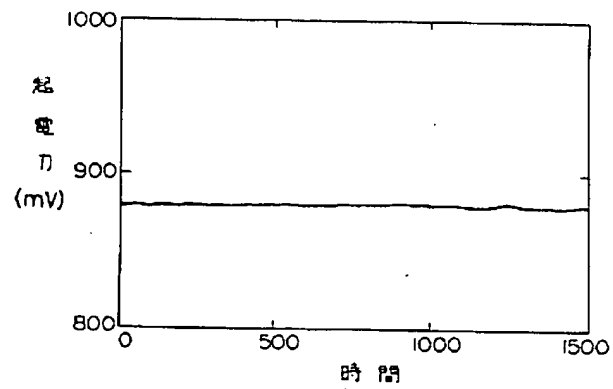
代理人 弁理士 藤巻正彦



第 1 図



第 2 図



第 3 図